



科学技術で創る日本の勝ち筋 —— 経済安全保障と成長の 好循環を実現する

三菱電機社長

漆間 啓

うるま けい

地

政学リスクが常態化する中、中東情勢の緊迫化に伴うホルムズ海峡の封鎖は、エネルギー途絶という

経済安全保障の危機を改めて浮き彫りにした。一つの海峡に限らず、全世界のいずれの要衝でも深刻な経済的ダメージを及ぼし得る現実を前に、われわれはサプライチェーンの多角化を急がねばならない。経済界全体で戦略的自立性を高め、揺るぎない産業の礎を再構築することが不可欠である。

一方、日本経済が持続的な発展フェーズへ移行するためには、将来を見据えた積極投資による産業構造の転換が急務だ。投資を起点とした価値創造こそが経済再興の原動力であり、その中核に据えるべきは科学技術の圧倒的な差別化である。大学改革と賃金水準の是正により高度人材の獲得・育成を加速させ、官民の研究開発投資を世界トップ水準へ引き上げたうえで、先端技術に大胆に配分することが重要である。

中でも「フィジカルAI」は、日本が培った卓越したモノづくりの強みを引き出し、中長期的な躍進を支える柱となる。現場の膨大な産業データを安全に連携・活用できれば、AIは現実世界をより精緻に理解し、高度な判断を導き出す。人とAIの協働を通じて現場力を研ぎ澄まし、労働力不足と

いう構造的課題を打破することで、新たな価値と市場を創出し続けていく。

また、デジタル化が進むほど、「サイバーセキュリティ」は全産業の生命線としての重みを増す。経営者はこれを単なるコストではなく、競争力の源泉たる攻めの投資と捉え、世界で最も安全かつ効率的な情報インフラを官民一体で整備すべきだ。

これらに取り組み電機業界をはじめとする産業界が主体となり、現場の知見と技術を土台に、持続的成長を支える産業基盤を盤石なものにしていく。

【FUTURE DESIGN 2040】の実現には、官民の知恵を結集し、変革を阻害する壁を崩す必要がある。投資が革新技術を生み、技術が産業の付加価値を高める。この力強い循環を日本経済の隅々に浸透させ、持続可能な成長モデルを確立することこそ、激動の時代を勝ち抜く日本の道だと確信している。

副会長として、山積する課題に真正面から向き合い、サプライチェーンの強靱化と科学技術への重点投資を通じて、経済安全保障と成長の好循環を生む基盤づくりにまい進する。日本の強みを次世代へつなぎ、持続可能で強靱な経済社会の実現に向け、全力を尽くしていく所存である。